

浜田教育事務所だより

発行

平成21年10月8日
第30号

浜田教育事務所

「見えないものをも 見えるように」

調整監 本田 研治

プラネタリウム・クリエーターとして、その生い立ちがテレビドラマにもなった大平貴之さんのお話を三瓶自然館サヒメルで聞きました。

大平氏は小学生の頃からプラネタリウムの自作に取り組み、大学時代から就職後も製作と改良を重ね続け、従来の数百倍にあたる百万個以上の星をドームに映し出す「メガスター」を発表して、話題になった方です。

開発にあたっての苦労など微塵も感じさせない軽妙なトークに引き込まれる一方、実際にメガスターからドームに投影された星空のすばらしさには息をのみました。とりわけ「天の川」の美しさには目を奪われます。それもそのはず、これまでのプラネタリウムでは天の川を雲状に表現していたのに対し、本機は本来肉眼では確認できない暗い星まで一つずつ投影することで自然な姿の天の川を再現させたと言うのです。

ものごとをアバウトに伝えるのではなく忠実に、しかも捉え難いものをわかりやすく表現していく工夫が感動を生むことを実感しました。

このことを、教育に当てはめようなんて野暮な話にはしたくないのですが、せめて、澄んだ秋の夜空を見上げる好奇心と夢を子どもたちには育てていきたいものだと思います。

互助会からお知らせ

島根県教職員互助会では、教育文化の振興発展のために、支局ごとに芸術・文化公演や講演会などを実施しています。

今年度、浜田支局では、大田市文化協会との共催で次のとおり開催しますので、皆様のお越しをお待ちしています。

難波利三・ふるさと文芸賞10周年記念事業

公開鼎談

《ふるさとを小説に描いて — 作家 難波利三の作品世界 —》

出席者：難波 利三（大田市出身・直木賞作家）

岡部 康幸（ジャーナリスト）

高橋 一清（元文藝春秋編集長）〔司会・進行〕

日 11月22日（日）14時45分から
（難波利三・ふるさと文芸賞授賞式終了後）

場 サンレディー大田 ふれあいホール

料 無料



学校・家庭・地域社会の役割と三位一体の連携の推進

社会教育スタッフ 社会教育主事 寺本典則

「学社融合というよりも、学校も地域も勝関を上げる不思議な活動だった。」

八月二十五日、「ふるさと教育」講座を開催した中で、前邑智小学校校長 長芦矢氏には、同校の実践をもとに、ふるさと教育について講演をしていただきました。邑智小学校の全教職員はもちろん、地域の皆さん、そして保護者・家庭が、未来を託す子どもたちにと、知恵と力と熱意を出し合い、数々の困難を克服して五泊六日の長期宿泊体験と、これを核にした学習を展開されました。その素晴らしさを物語るのが、冒頭の言葉です。まさに「子どもも元氣、大人も元氣」です。

「教育は人なり」と言いますが、三者それぞれが持ち味を生かした熱意と愛情で、子どもたちへの教育効果は計り知れないものがあつたことと思います。そして、さらに子供たちにとってよかつたことは、これが学校教育として行われているため、児童全員に、ふるさとにどっぷりとつかつた素晴らしい「体験」と、それを「経験」とするための学習が保障されたことです。

「しまね教育ビジョン21」にも、「学校内外で子供の様々な課題が増加する中では、もはや、学校のみで子供たちにかかわるすべてのことを行うことは不可能です。」と明記されています。子どもたちは、多くの人たちのかかわりの中で、愛情や生き方に触れ自己を育てていきます。それは、「社会力」の育成でもあります。

島根県の「ふるさと教育推進事業」は、現在第二期の二年目ですが、未永く支援し合える関係となる第三期をめざし、このような教育を続けていける体制づくりとその充実を図ろうとしています。

「子どもも地域の一員」「学校も地域の中の一軒の家」という考えの中で、三者が力を合わせて、「ふるさと教育」に取り組んでいけるよう、教育事務所も支援していきます。

しまね数リンピック

- 主催** 島根県教育委員会
- 協力** 島根県算数・数学教育研究会
- 対象** 小学校5・6年生及び中学生で、参加を希望する個人または2名1組。
※自宅から会場までの往復について、保護者が責任をもてる児童生徒であること。
- 期日** 平成21年11月1日(日)
- 会場** 浜田合同庁舎
- 日程** 受付 8:50～9:15
小学生の部 9:30～11:00(90分)
中学生の部 9:30～11:30(120分)
- 表彰** 最優秀賞・優秀賞・優良賞を設け、正答率が概ね60%以上の者を表彰する。
- 参加申込** 参加希望者を学校で取りまとめ、市町教育委員会へ申し込む。